

平群

Heguri

≡議会だより

9月定例会

No.263

平成29年11月1日

発行:奈良県平群町議会

第4回定例会(9月)

議決結果	2
質疑あれこれ	3~4
決算審査特別委員長報告	5~8
文教厚生委員長報告	9
議会の動き・議員提出議案	10
町政を問う! 一般質問	10~15
町の話題	16



へぐりいきいき百歳体操～身近な仲間と楽しく体操～(御陵苑公民館にて)

第4回定例会 こんなことが決まりました



第4回定例会は9月5日～21日まで17日間の会期で開かれました。初日は、町長提出の14案件を審議し即決しました。昨年度の一般・特別水道事業の各会計決算・決算審査特別委員会（7～8日に審議）に、議員提出の国民健康保険条例の一部改正議案と住民からの「国民健康保険税の引き下げを求める請願書」は文教厚生委員会に付託（11日に審議）しました。一般質問は13、14日に行われ、10名の議員が町政課題について質問・提言しました。最終日は、決算審査特別委員会と文教厚生委員会の審査結果報告を受けて採決を行い、議員提出の意見書1件と決議1件が上程され審議採決を行いました。

議決結果賛否一覧

○賛成 ●反対（議長は、可否同数のとき議案の可否を決定します）

提出区分	議案名	議決結果	山本隆史	城内敏之	井戸太郎	森田勝	稲月敏子	植田いづみ	山口昌亮	高幣幸生	窪和子	下中一郎	馬本隆夫	山田仁樹
町長提出議案	平成29年度平群町一般会計補正予算(第2号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度水道事業会計補正予算(第1号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町下水道事業特別会計補正予算(第1号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成29年度平群町介護保険特別会計補正予算(第1号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町体育施設の指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町立老人福祉センターの指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町若井集会所の指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町農村環境改善センターの指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町活性化センターの指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町都市公園の指定管理者の指定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町一般会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町学校給食費特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	
	平成28年度平群町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度平群町水道事業会計決算の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成28年度西和衛生試験センター組合一般会計歳入歳出決算書の認定について	原案認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	人権擁護委員候補者の推せんにつき意見を求めることについて	原案承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
請願	平群町国民健康保険税引下げに関する請願書	不採択	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
議員提出議案	平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	否決	●	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	
	小中学校におけるプログラミング必修化に対して支援を求める意見書(案)	原案可決	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	
	核兵器廃絶を求める決議(案)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

議長は採決に加わりません

質疑あれこれ

9月議会に上程された議案
及び質疑を紹介します。

平成29年度一般会計補正 予算(2号)

国からの地方特例交付金(減収補填)、臨時財政対策債を含めた普通地方交付税額、地方創生交付金の採択・不採択、新たな起債、前年度繰越金、西和衛生試験センター解散清算金の確定で、差引3億2301万4千円の歳入増。一方、歳出は、人事異動による人件費の調整、マイナンバーシステム改修経費と新たなイベント経費、北小学校と南小学校のボイラー設備管補修等の経費、北小学校空調設備設置の設計費の計上、対象者増に伴う母子保健事業の扶助費の増額、平準化債減額に伴う下水道会計



への操出金の増額を行うもので、差引総額は1億874万9千円。歳入超過の3億426万5千円は当初予算の未確定財源(歳入不足分)の減額にあてて、収支の均衡をはかるものです。

主な質疑

質問 今回の補正で、当初予算で3億9000万円あった未確定財源が2億5000万円になる。この間、不用額が2億円あることから、今年度単年度の実質収支をほぼトントンと見込んでいるのか。

答弁 今年度単年度の見通しは、不用額が年々減少していることなどから単年度ベースでの黒字というのは、今の段階では非常に不明瞭なところがある。

質問 普通交付税が確定して当初予算より1億5000万円も増加した理由は。

答弁 予算編成では、国の地方財政計画でマイナスイーリングということで措置したが、本町の場合、急激な高齢化による高齢者人口の増加と子ども子育て支援部分での料率の見直しで交付額が増えた。

質問 コミバス事業への交付金申請が採択されなかったのはなぜか。

答弁 地方創生の交付金ということで補助申請をしたが、地域の公共交通事業が地方創生事業に該当しないということで不採択になった。

質問 マイナンバーのシステム関連予算がいとも出ているがシステムはいつ完了するのか。

答弁 今の期限は今年の10月から完全スタートとなっているが、税と福祉と災害の関係のみで、今後、いろいろな行政に関して広く活用していく考えを国が示しているので、明確な最終の時期はまだ出ていない。

質問 南小学校のタンクの延命をされるということはエアコンを付けなくて進もうとしているということか。

答弁 地下タンクの通気管の取り替え工事を実施すると40年の対応年数の平成34年まで使用できる。エアコンの必要性は十分認識しているが、財源確保の見通しがないため、実効性のある年次計画を明確にすることが困難な状況。

質問 北小学校のエアコン設置事業はほとんど借金で実施するもの。北小学校に続いて南小に設置するのは当然。「財政が大変」は10年前から言っている。南小を廃止したいから設置しないということか。

答弁 同じ教育環境は大変重要なこと。南小学校については、



小学校再編成アクションプランがあり、それとの兼ね合いもある中で、その辺を十分検討のうえ、現状の南小学校の保護者の考え方も十分勘案して、空調設備については検討したい。

質問 小学校再編成アクションプランは今も生きて、今後必ずと生きていくのか。

答弁 いったん作ったアクションプランが未来永劫生きていくのかどうか検証もしなければならぬ。今後、総合的に検討していきたい。

質問 北小学校のエアコン設置、来年度の工事も含めた経費はいくらか。

答弁 今回の測量設計費が650万円。財源内訳は起債480万円(元利償還金の50%交付税算入)、一般財源170万円。来年度工事費の概算は5200万円、財源内訳は国庫補助1368万7千円、起債2870万円(元利償還金の30%交付税算入)、一般財源961万3千円となっている。

次項へ続く

質問 来年度になるが、北小学校のボイラー撤去費用の積算はいくらか。

答弁 正確な数字はつかんでいない。国庫補助の対象になるのかどうか、今後検討していきたい。

質問 おせっかい隊イベントの目的はなにか。

答弁 結婚に結びつけるような協力を地域住民にしていたたき子どもを育てていく。それを行政主導ではなく地域住民と協同して取り組んでいく事業。

質問 おせっかい隊に参加してもらった働きかけはどのようにするのか。

答弁 予算が通れば、早い時期に募集する。各種団体やこれまでの婚活イベント協力者に呼びかけていきたい。

平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(2号)

歳入では、前期高齢者交付金の確定により1億1671万8千円増額、国からの療養給付費負担金3840万6千円、国と県からの普通調整交付金をそれぞれ1080万2千円減額するもので、総額は差引5670万8千円。歳出は、前期高齢者納付金関連で63万1千円と昨年度の療養給付費等の確定に伴う償還金3491万2千円を増額するもので、総額は3554万3千円。歳入超過の2116万5千円は、6月議会で補正をした歳入欠陥補填収入昨年度決算の赤字分1億1444万3千円を減額して、収支の均衡をはかるものです。

主な質疑

質問 前期高齢者交付金が当初予算より1億1600万円増加したのはなぜか。

答弁 前々年度の実績から予算額を積算するが、その前々年度の確定値が直近にならないとわからないことから、当初予算と差が出た。

質問 今年度単年度実質収支について6月議会で町は8000万円程度の黒字見通しと答弁した。今回の補正で見通しはどのようなのか。

答弁 6月議会での見通しでは前期高齢者交付金の増加はわかっていたので、それも加味していた。償還金が6月時点の見込みより500万円減ったのは確かだが、「8000万円」という数字はあくまで当時の概算。

平成29年度水道事業会計補正予算(1号)

人事異動に伴う人件費153万4千円、負担金1万4千円を増額し、委託費154万8千円を減額するものです。

平成29年度下水道事業特別会計補正予算(1号)

補正額は942万3千円の減額。歳出では、公共下水道事業の設計や調査の委託料を増額し工事請負費の減額、流域下水道事業負担金の確定による減額をおこないます。歳入では、国庫補助の社会資本整備総合交付金確定に伴う増額、資本費平準化債の減額



に伴う一般会計繰入金の増額と下水道事業債の減額、前年度決算確定に伴う繰越金の減額、補助金増額をおこなうものです。

質問 資本費平準化債を1500万円減額しているが。

答弁 資本費平準化債の借入れ限度額は当初予算どおり見込んでいたが、今年度直前に、国の激変緩和措置の計算基準が大きく変わったことによるもの。

平成29年度農業集落排水事業特別会計補正予算(1号)

人事異動に伴い、歳入の一般会計繰入金と歳出の人件費をともし22万7千円減額するものです。

平成29年度介護保険特別会計補正予算(1号)

人事異動に伴い、歳入の一般会計繰入金と歳出の人件費をともし353万2千円減額し、増額となった前年度繰越金7335万6千円から前年度の給付費清算金913万1千円を措置し、残りの6422万5千円を基金に積み立てるものです。

質問 今回の補正後の基金は2億6000万円を超えている。今年度当初予算でも単年度黒字予測。今年度収支をどのように見ているのか。

答弁 特養施設が予定より若干すれ込んだことで2000万円べりの黒字と見込んでいく。

平成28年度西和衛生試験センター組合一般会計決算

西和衛生試験センター組合が昨年度末に解散したため、加入する西和7町の各議会が同センターの昨年度一般会計決算について認定をするためのものです。



平成28年度 各会計 決算審査特別委員長報告

一般会計

《議会費・総務費》

質問 (仮称)文化センター・図書館基本計画の成果は。

答弁 基本条件の整理や施設の整備方針の立案、管理運営の在り方など、基本設計において具体的な検討を行うための基本的な考え方を提示した。

質問 マイナンバーカード交付件数と交付を促す取り組みは。

答弁 29年8月末現在で、本人が所持している件数は20029件であり、啓発の取り組みは、総代自治会長会議等でお願ひし、11月頃に国からタブレットの貸与があり、窓口でも受付していきたい。

質問 防災行政無線の更新計画は。

答弁 放送時に各所で不具合があり、一括して全体の更新と考えているので、現在、調査研究を重ねている。更新期間が約2年かかるので、30・31年度で事業を進めていきたい。

《民生費》

質問 子ども医療費の現物給付化に伴う県と各市町村との協議は。

答弁 乳幼児、就学前の児童の

医療費について、現物給付化をすることを前提に協議が進められており、29年度中に結論が出ると聞いている。

質問 待機児童の定義と対策は。

答弁 28年度から29年度に待機児童の定義が大きく変わった。28年度までは育児休業中は待機児童として数えないが、29年度からは育児休業がいったん終わりを復帰することがわかつている期間には待機児童として扱うことになった。対策としては、4月の時点では待機児童ゼロを目指して進めているが、途中の入所については受け入れできるかはわからない。今後工夫して、4月の時点のクラス編成等も考慮していきたい。

《衛生費・労働費》

質問 斎場運営について、指定管理者制度を導入する考えは。

答弁 指定管理者の選定による施設の管理運営という行政の在り方で、直営から指定管理という一定の成果を上げている施設もあるので、行財政改革の側面からも考えていく必要がある。



質問 家庭ごみを減らす方策を考え、その計画を立てているのか。

答弁 現在年次計画は持っていないが、30年度の目標は持っている。ゴミの減量があり進んでいない状態であるので、可燃ごみに特化した分で計画的なものを作っていきたい。

《農林水産業費・商工費》

質問 新規就農者確保事業補助金で予算として900万円見込んでいたが、減った理由は。

答弁 予算計上時は継続者4名と新たに事業の対象となる方2名で予算措置していたが、4名のうち1名が一定所得をオーバーしたため、助成を受けることができなかった。また、新規分2名見込んでいたが、実績は1名であったため。

質問 特産品開発事業で、産官学連携について今後の方向性は。

答弁 これまでのジェラートに加えて、ハーブ、ニンジン、かぼちゃを使ったジェラートを検討している。オリジナルブランドは、ピクルスやソース類も検討していきたい。

《土木費・消防費》

質問 竜田川遊歩道整備事業で、桜のライトアップに係る地域の合意形成と進み具合は。

答弁 実施していく方向性で竜田川まほろば遊歩道整備推進協議会事業として進めており、当該地区の自治会とも協議し、合意形成を図っていききたい。

質問 女性消防団の結成をどのように考えているのか。

答弁 本町の女性消防団員は29年4月現在で全団員61名のうち1名が女性団員で、生駒郡4町では唯一の女性団員。まだ人数が足りないなので、先に活動団員を優先して募集していきたい。

次項へ続く

《教育費》

質問 小・中学校の防災教育の具体的な取り組みは。

答弁 平群小・北小学校に緊急地震速報の装置を国の事業で設置することができ、今年度も南小学校で設置します。その装置を使いながら避難訓練をはじめ、いろんな事情を想定してマニュアルに基づき訓練を実施をしている。また、想定外の事態も起るので、防災マニュアルの見直しを行うよう協議を進めている。



奈良大学の技術協力による発掘調査区のレーザー測量の様子（椿井城跡）

質問 文化財保護費の賃金が減った理由は。

答弁 調査区域が少なかったことと、発掘現場で掘削したり、実測図を作ったりするのに作業員が必要になるが、一部の実測図の作製にあたっては、官学連携協定している奈良大学の技術協力で無料のレーザースキャナーを使用したので、作業員賃金の支出減となった。

《公債費》

質問 一時借入金でいつの時期にどれだけ借りたのか。

答弁 28年度は、29年3月17日に3億円を利息0・108%で、南都銀行より借入を行った。なお、返済は出納閉鎖の29年5月31日に済ませた。

《歳入全般》

質問 固定資産税で土地の分は減っているのに、全体として3600万円調定額が増えた要因は何か。

答弁 新築家屋と事業所用建物で増収があった。またその償却資産と太陽光発電施設の増収である。

質問 人口減少対策費が交付税にどのように反映されているのか。

答弁 地方創生を推進するために創設された人口減少対策費は、当初は取り組みの必要度が高いところが多く交付され、交付年次は27年度より5年間である。本町では27年度は1億6300万円、28年度は1億6200万円需要額として算入されている。

質問 地方債の発行に対する考え方は。

答弁 償還する元金を超えることのないように予算編成方針では徹底しているが、道路事業をはじめ、駅周事業等の財政需要が重なっており、財源こそ地方債頼みになるのは致し方ないが、償還期間の工夫をして、後年度の負担にならないように努めている。



平成28年度 一般会計・特別会計決算

(△はマイナス 単位：円)

会計区分		歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度へ繰り越す財源	実質収支額
一般会計		7,605,503,651	7,406,992,965	198,510,686	22,852,592	175,658,094
特別会計	住宅新築資金等貸付事業	16,967,315	24,598,139	△7,630,824	—	△7,630,824
	国民健康保険	2,774,998,942	2,889,444,250	△114,445,308	—	△114,445,308
	下水道事業	566,287,225	562,537,385	3,749,840	2,872,000	877,840
	農業集落排水事業	35,321,228	35,321,228	0	—	0
	学校給食費	62,892,253	62,865,734	26,519	—	26,519
	介護保険(保険事業勘定)	1,784,855,394	1,711,499,438	73,355,956	—	73,355,956
	奨学資金貸付事業	108,000	108,000	0	—	0
後期高齢者医療		337,704,286	337,439,386	264,900	—	264,900

賛成討論

2億6千万円余りの未確定財源を計上した予算であったが、最終決算では実質収支は1億7565万8千円の黒字となり、実質単年度収支は、2億7175万5千円の赤字決算となった。主な要因として、歳入においては財政調整基金の繰入金金の増加等や、国・県支出金や町債の発行額が増加したこと等によるもので、今後も町税はもとより、各種分担金や負担金等の歳入確保と未収金発生防止及び徴収体制に一層の努力が求められる。歳出では、厳しい財政状況が続く中ではあるが、住民生活を守るため最大限効果を上げるよう努力されたことを高く評価し、決算認定には賛成する。

国民健康保険 特別会計

質問 基金がゼロの中、広域化を控えるこの現状をどのように受け止めているのか。

答弁 奈良県は他の県と違って、医療費水準を見ないかたち

をとっている。6年を目途に全県1人当たり同じ負担になることを目指している。県下39市町村はそれぞれ財政状況や所得状況も違うので、ひとつにしていくのは難しいところである。現時点で示されているのは大枠で、詳細は未定である。

質問 足りないから簡単に国保税を上げるやり方は、大きな住民負担となるので、データをきっちり分析すべきと考えるが。

答弁 医療費の動向をみる場合、国からくる計算式を正確に把握し、正しく検証してデータを蓄積し、データからの見通しで住民説明する必要があると考えている。

下水道事業 特別会計

質問 計画区域の見直しも視野に入れながら公営企業化を考えるべきだが。

答弁 個別の合併浄化槽事業もしており、投資効率を考えながら、今後は公営企業会計にな

るので、将来的な財政見通しも立てる中で大幅な計画区域の見直しも必要となってくる。

学校給食費 特別会計

質問 平群の特産品「おかずみそ」を活用する取り組みは。

答弁 加熱するというハードルがあり、「おかずみそ」をそのまま給食に使用できなかったが、品質と味を落とさないように給食センターで研究を重ねた結果、本年11月から給食に出せるようになった。今後も「おかずみそ」や普通の味噌を使った給食のおかずを提供できるように、研究していきたい。

次項へ続く



水道業務実績

	単位	平成28年度	平成27年度	比較
給水件数	件	7,899	7,796	103
年間総配水量	m ³	2,130,280	2,177,365	△47,085
内自己水	m ³	186,852	249,210	△62,358
内県営水道	m ³	1,943,428	1,928,155	15,273
年間有収水量	m ³	1,922,356	1,946,822	△24,466
有収率	%	90.2	89.4	0.8

※有収率…料金収入を得た割合(年間有収水量/年間総配水量)

水道決算状況(税込)

(単位:円)

		平成28年度	平成27年度	比較
収益的収支	収入	514,826,288	508,293,202	6,533,086
	支出	514,108,336	494,516,967	19,591,369
	差引	717,952	13,776,235	△13,058,283
資本的収支	収入	160,547,520	23,076,440	137,471,080
	支出	222,640,705	133,463,922	89,176,783
	差引	△62,093,185	△110,387,482	48,294,297

指定管理者の指定について

平群町は現在、5つの公共施設について指定管理者を選任しています。来年3月末に指定期間満了になることから、新たに、来年4月1日から4年間の指定管理者を指定するためのものです。

※体育施設と中央公園・北公園

平群町地域振興センター

※老人福祉センター(かしの木荘)

平群町社会福祉協議会

※若井集会所

大字若井

※農村改善センター

大字上庄

※活性化センター(道の駅)

平群町地域振興センター

介護保険 特別会計

質問

28年度の計画と実績の乖離は、2億9577万円で計画に対する実績比は84・6%になっているがその要因は。

答弁

国のワークシートを活用して、一定のサービス利用者数、利用者数を見込んで、どれだけのサービスを限度額まで使うかを想定して積算している。認定者が1167人ぐらいに對

反対討論

給付費総額の実績が計画の84・6%は異常であり、6期計画全体で保険料を2億4000万円も取り過ぎた結果は、欠陥のある計画に基づいて被保険者

賛成討論

に必要以上の保険料負担を押し付けた予算編成の結果であるため、決算の認定には反対する。

加入者が保険料を出し合い、介護を必要とする状態になっても、安心して生活が送れるように、施設介護サービス、居宅介護サービスや介護予防サービスが利用でき、お互いを助け合う相互扶助の精神を持って運営されている。介護保険給付費準備基金も2億500万円あり、今後介護保険の運営は財政的に安

定した決算となっていることを評価し、決算の認定については賛成する。

住宅新築資金等 貸付事業特別会計

農業集落排水 事業特別会計

奨学資金貸付 事業特別会計

後期高齢者医療 特別会計

水道事業会計

以上、10件の一般会計・特別会計・水道事業会計については認定することに決しました。

決算審査特別委員会

委員長 下中 一郎



人権擁護委員候補者の 推せんにつき意見を求 めることについて

中村高士氏は適任であるとの意見で答申することに決しました。



住所 平群町梨本
中村 高士 氏

請 願 文 書

平群町国民健康保険税引下げに 関する請願書

請願の要旨

平成29年度平群町国民健康保険税は前年度の1.6倍の大幅引き上げ、これは住民にとって負担が大きすぎます。よって、高い国保税の可能な引下げを求めます。

また、住民説明会での町長提案「29年度でいったん赤字を止めるため2億5,000万円を引き上げ、28年度の赤字は保留にし、30年度からの広域化6年間の調整期間で解消したい」について説明を求めます。

請願者

平群町若葉台2丁目14番23号
柏木 勲 他15名
紹介議員 井戸 太郎 森田 勝
山口 昌亮
付託委員会 文教厚生委員会

文教厚生委員長報告

発議第6号 平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

本条例は、平成29年度の国保税が昨年度より大幅な増税になり住民に大きな負担増になったため、加入者の負担をできる限り抑える観点から、1回あたりの支払額を抑制するため、8回の分割払いを12回の分割払いにできるように改正するものです。

質問 納期の回数、現状8回を12回とした場合のシステム改修費や経費は。

答弁 システム改修費は、初年度のみで550万円。電算委託料、各種手数料など年間毎年268万円増加する。

質問 住民の方から納期の回数を増やす申し入れ状況は。

答弁 納税相談などでの対応で、12回払いにすることもあ
る。※12回の場合は延滞金が発

生ずる。

質問 納期の回数について、他の市町村の状況は。

答弁 奈良県内では4市町村が10期納付で、その他が8期納付。県外では12期納付もある。

質問 分納の場合、かかる督促手数料の金額を誰が負担するか。

答弁 納期から20日以内に督促状を発送。1通につき100円。世帯主が負担。

討 論

システム改修やランニングコストが大きな財政負担になる。今後このような増税にならないように十分議論し、健全財政を目指すことで対応したいので、反対する。

平成29年度の納税額は異常な引き上げ。何とか払おうとしている方に、1回分の支払い額を下げて、きちんと納めていただくことが大事なので賛成する。

採決の結果、発議第6号は否決すべきものと決定しました。

請願第2号 平群町国民健康保険税の引下げに関する請願書について

請願の要旨は、平成29年度に前年度から約1.6倍に引き上げられた国民健康保険税の引き下げを求めるものです。

質問 住民の生の声を聞き、どう感じ、どうすべきと考えたか。

答弁 国保財政は、基本、国保の被保険者で賄うもの。広域化に向けて健全財政を目指したい。しかし、赤字額が半減したことも事実。住民の声を真摯に受け止め運営に努めたい。また、一般会計の繰り入れしている市町村もあるが、平群町は財調基金がほぼないので、できない。

質問 国保の被保険者の人数は。

答弁 平成29年度当初で5331人。

質問 町の健康づくりでの医療費削減は。

答弁 健康平群21計画をもとに、食や運動、たばこ対策、介護予防、精神保健、生きがいづくりなど、住民の方々にも協力していただいている。

質問 国保決算が終わり、赤字見込みが1億4000万円少なくなり、前期高齢者交付金が1億円の追加で入ることになった。それでも、税額を見直す考えはないか。

答弁 平成29年度は赤字にしないという当初の目標で、最悪2億5000万円の医療費の伸びに耐えられるよう計画した。しかし、まだ1億円超の赤字がある。見直しは考えていない。

討 論

結果として赤字額が少なくなつたが、基金もなく累積赤字がある。国保財政の健全化が最優先。財政の推移を見ながら、引き下げができるときに議論すべき。反対する。

奈良県広域化でどのような条件になるのか予測できない。マイナス条件は払拭しておくべき。先が読めないので、反対する。

予想より1億4000万円、半分以下の赤字額になった。また、前期高齢者交付金が1億円追加配分された。予測が大幅に変わればそれに合わせた形で税額を見直すべき。高すぎる国保税を見直してほしいとの住民の請願は切実。賛成する。

高齢者が破綻しかねない。国や県が激変緩和措置を講じ、6年間かけて緩やかに増税しようとしているのに対し、平群町は挙に引き上げた。当然引き下げるべき。賛成する。

採決の結果、請願第2号は、不採択とすべきものと決定しました。

文教厚生委員会
委員長 井戸 太郎



町政を問う!

一般質問一覧

井戸議員	1. 平群のための平群によるクラウドファンディングを 2. 国民健康保険税、様々な影響を考え、少しでも減税を 3. なぜ平群町はしない? 他市町村の政策
植田議員	1. 認知症患者の障害者手帳取得について 2. 乳がん検診結果での「高濃度乳房」の通知の併用を
城内議員	1. 国文祭を控え可及的提案
下中議員	1. 「平群こどもサミット」の開催について 2. 学生を対象としたインターンシップ支援について
馬本議員	1. 適切な公文書管理へ 2. 平群町災害時の避難対策計画について 3. 町内の建設業者育成を 4. 自己水を廃止し県水100%編入へ 5. 公有財産の不動産管理について 6. 公共交通空白地域解消へ
窪 議員	1. コミバス運行事業の見直しに伴う利便性向上を 2. 国道168号線平群バイパス（三里付近）の通学路の安全対策として「速度規制」を 3. 平群町独自の婚姻届・出生届と記念証明書の発行を 4. 町キャラクターのLINEスタンプ作成を 5. 後援名義の使用規定の策定を
山口議員	1. 国民健康保険の県単位化と国保会計について 2. 榎原の農地への土砂等不法投棄の早期改善を 3. 南小学校普通教室へのエアコン設置について
森田議員	1. 町職員が多く、削減すべきでは 2. 平群駅周事業は予定通り完成できるのか 3. くまがしクラブの来年度以降の継続は 4. クラウドファンディングで町づくりを。例えば花いっぱい運動を
稲月議員	1. ナラ枯れした危険木対策について 2. 「非核・平和町宣言」をさらに大きくアピールを 3. 工事中平群駅周辺地域の改善について
高幣議員	1. 平群駅前に観光ホテル誘致、簡保の宿移転 2. 仮称「文化・図書館センター」の名称に「子どもと観光」を入れるべきです

委員会等の開催

議会運営委員会

8月21日(月)

※平成29年平群町議会第4回定例会の議会運営について

全員協議会

8月31日(木)

※第2次財政健全化計画の策定について

10月4日(水)

※第2次財政健全化計画の策定について

※仮置き焼却灰積込運搬業務の状況報告について

総務建設委員会

9月6日(水)

※執行後における政策評価について

文教厚生委員会

9月6日(水)

※執行後における政策評価について

議員提出議案

平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

提出者

植田

いずみ

賛成者

山口

昌亮・稲月

敏子

(否決)

小中学校におけるプログラミング必修化に対して
支援を求める意見書(案)

提出者

窪

和子

賛成者

高幣 幸生

(原案可決)

核兵器廃絶を求める決議(案)

提出者

稲月

敏子

賛成者

植田

いずみ・山口

昌亮

(原案可決)

平群の平群による クラウドファンディングを



井戸 太郎

質問

クラウドファンディングとは、イベントや企画をネット上でし、共感した人から資金を集め目的を達成する方法。

地域へ貢献する「寄付型」(砂漠に緑を、ベトナムに小学校をなど)。権利や物品を購入する「購入型」(超ミニパソコン、世界一軽い自転車など)がある。

さて、数年後、国の補助金は減少。約150億



円の毎年返済で、平群町はさらに財政難に陥る。

そこで、住民が平群に寄付できるよう、町の無駄遣い等の不信感の払拭が必要。寄付金の使い方が明確なクラウドファンディングが有効となる。具体的には「平群の子供たちに本を」「平群中学校に楽器を」「町中に花を植えよう」「盆踊りで打ち上げ花火を」など。さらに今後、ベンチャー企業の育成、起業の促進が課題となる。そこで、平群町が資金調達の場を提供するのである。クラウドファンディングを導入するのはいかがか?

答弁

有用性は理解できるが、利用手数料等の問題もある。今は、目的を指定したコミュニティ型のふるさと納税に力を入れたい。

認知症患者の障害者手帳 取得について



植田 いずみ

質問

認知症と診断されて6カ月を経過していれば、一定の症状が確認できれば精神障害者福祉手帳の取得が可能となる。手帳取得により、税金(住民税・自動車税等)の控除・減免・非課税になり、介護保険料の軽減、公共料金等の免除・割引等の負担軽減につながる。介護認定での主治医意見書で、認知症レベルが日常生活に支障をきたすと判断される方が約590人。現在65



歳以上の手帳保持者は27名であり、潜在的に手帳取得の可能な方がいると推察される。これは認知症で精神障害者福祉手帳の申請・取得について十分周知されていないと考

答弁

えられ、広報や在宅・包括支援センターなど、認知症の方を抱える家族も含め周知の体制整備をおこなうべきと考える。

認知症の方が精神障害者保健福祉手帳を申請できることについて、これまで手帳の案内はしていませんでした。今後作成予定の「認知症ケアパス」の中で手帳取得の情報掲載や障害福祉制度の説明の中に手帳対象者として、認知症も記載していきます。障害者手帳の申請についても広報等で周知していく。

国文祭を控え可及的提案



城内 敏之

質問

1. 椿井城見学路整備

南第一郭〜第二郭間の堀切（切通し）部分の見学路南第一郭北側斜面は、土嚢袋が擦り切れて、中の土が流れ出してスロープ状になっており、非常に危険であります。

現在登城路の急勾配の部分には、土嚢の階段にしているが、これはあくまで応急処置と考えるべき



きでしょう。上述のごとく間伐材を利用した階段状にすべきと考えます。

2. 柿塚古墳の導入路

羨道開口部前のスベール

スガほとんどなく隣地との落差もあり危険です。安全対策として早急な整備が必要と思われます。

3. 若井井戸の里道

柵の扉の前付近に放置された岩石を取除く作業をぜひお願いしたい。

答弁

1. 椿井城見学路整備

登城道の整備については、椿井城跡管理組合と調整の上、有効な整備のあり方を検討して参ります。

2. 柿塚古墳の導入路

現状として町が主体で整備する事が困難なので、民間での取組みの動きを注視して参ります。

3. 若井井戸の里道

町有地にあるので雑石は早急に除去します。

学生を対象とした インターンシップ支援を



下中 一郎

質問

新たな雇用と交流を

生み出す総合戦略の具

体策として、インターンシップ支援事業が策定されているが、本町でこの事業を展開していくうえで、大前提となる

学生を受け入れ可能な事業所が、町内には少ないという現実です。

この状況のもとで、施策を推進していくため

には、先ず、地元商工業者と情報交換を進めるとともに、平群町の特

質問

性を生かし、基幹産業である農業分野に視点を向けた取り組みが重要です。

農業経営者の意向を踏まえ、より農業を活性化し、担い手の育成や新規就農者の増加などにつながる農業イン

答弁

ターンシップを前面に押し出して、施策を展開すべきと考えるが。

この支援事業の肝は「受け入れ企業」と「学生」とのマッチングであり、町内には、企業が少ないという現状を踏まえ、学生を受け入れられる企業・事業所があるのかを商工会と情報共有していきたい。

また、農業に視点を向けた支援事業については、受け皿となる農業経営者の意向も考え、担当課と協議を行い、協力体制をとりながら対応していきたい。



町内の建設業者育成を



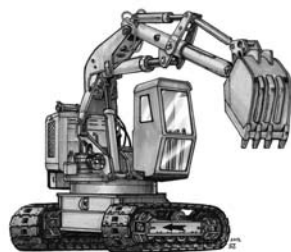
馬本 隆夫

質問

10年前には、指名建設
工事業者数（平群町に本
店、支店、営業所）は
55業者でしたが、現在
は34業者と21業者
（38%）も減少となり
ました。

地元業者（平群町に本
店）の建設工事請負格付
業者は、A級2、B級
8、C級10、D級10の合
計30業者で、特にA級
は、以前の5社から2社
に激減致しました。

今後、大規模災害時等
において、災害復旧、人



命救助等、緊急車両の通
行ルートを迅速に確保す
るには、地元建設業者の
協力が必要不可欠となり
ます。

地元業者育成の観点か
ら、来年6月に予定さ
れている町内業者の格付
までに入札制度一部見直
しを検討すべきであると
今年の3月議会に質問
しました。担当課長は
「公共事業の入札は競争
性を担保し、業者選定格
付委員会で議論してい
ります。」と回答されま
した。

答弁

地元業者育成として、
建設工事（土木・建築・
舗装・水道工事）におい
ては本店要件を設定し、
発注基準の見直しも併せ
て検討し、今年の10月
中には決定を致します。

コミバス運行の見直しに伴う 利便性向上を



窪 和子

質問

利用しづらくなりまし
た。

今後、ダイヤ改正に関
する基本的な考え方とし
て、『もう一度、原点に戻
って、コミバスを必要とす
る高齢者の目線に立つた

町コミバスは平成17年
よりバス交通空白地域を
対象に、町の公共施設の
利用促進や住民生活の利
便性確保を目的に運行実
施し、これまで幾たびも
ルート・ダイヤ改正を行っ
てきましたが、利用者数
は減少傾向にあります。

その要因の一つとして、
今年度のダイヤ改正によ
り、特に中央公民館や、
かしのき荘でのクラブ活
動の開始時間に間に合っ
たダイヤが無くなり、大変



見直し』を行い、利便性
の向上に努めるべきでは
ないでしょうか。

答弁

今年度の改正において
は、「ゆめさ」とも園の
通園支援を加え、かん
ぽの宿平群とザ・ビック
エクストラ平群店にバス
停を新設するなど改正し
てきたが、一部調整が困
難でご迷惑をおかけし
た。

ご指摘頂いたご意見
や、現在、かしのき荘や
コミバス車内で実施して
いるアンケート調査結果
も踏まえ、もう一度原点
に戻り、高齢者の目線に
立つて出来る限り考慮し
反映できるように努めて
まいります。

南小学校普通教室への エアコン設置について



山口 昌亮

質問

今議会初日、町は北小学校へのエアコン設置が来年度に決まったものの、南小学校については「財政状況を見ながら」と、年次計画を立てることをさえ拒否し、町長に至っては「南小学校を廃校にする」可能性まで言及しました。

そこで、南小へのエアコン設置は、①南小の存続が決まるまでしないということか、②存続か、廃止か、いつまでに結論

を出すのか、③存続か、廃止か、決めるものさしはなにか、④平群町の今後の町づくりのうえで、住居分布や地理的条件から南小の廃止はあり得ないと考えてるが、町の見解はどうか。

答弁

①町内の児童には同じ教育環境を整えたいと考えている。存続か、廃止かでエアコンを実施しないということではない。

②その議論は習熟していかないで明言できない。

③現段階で具体的なものさしはない。

④一つの学区は町づくりにとって大きな構成要素であり、様々な面から重要と考えている。(小学校を2校にするとした) 小学校再編成アクションプランについては事実上、頓挫していると考えている。



町職員が多く、 削減すべきでは



森田 勝

質問

総務省・県の資料によると、平群町の職員は190人で、近隣の三郷町168人、斑鳩町191人、王寺町161人で、ラスパイルス指数は平群95・3、三郷95・9、斑鳩98・7、王寺94・9となっている。

王寺町は平群町より人口が多く、財政規模が大きいにも関わらず職員は平群町より29人少ない。その中身を比べてみると、会計別では一般会計は平群171人、王寺1

42人、部門別では税務は平群11人、王寺9人、民生は平群57人、王寺20人等となっている。

そこで、王寺町と住民サービスに違い、差があるのか。また住民サービス、職員の配置等の調



答弁

査、分析を行い、職員の削減につなげるべきでは。

住民サービスの違いは、平群には町立のごども園が2園あるが、王寺は町立の幼稚園が3園、町立の保育園がなく全て私立で、給食は行っていない。また、平群には清掃センターがあるが、王寺は単独のものがなく、香芝市と環境施設組合を作り運営している。

しかし、ご指摘の通り住民サービスの違いや職員の配置等、あらゆる角度から検証して参りたい。

ナラ枯れした危険木対策について



稲月 敏子

質問

矢田山系、生駒山系ともにナラ枯れが年々進行し、倒木のおそれが予想される。

住民の安全を守る観点から対策について質す。

①本町ではナラ枯れ対策には県の森林環境税を原資にした補助（山林所有者の申請による）制度を実施しているが、申請状況及び、対策の進捗状況は。

②公道等、人や車が通行する道路沿いのナラ枯



れ樹が目立つ。道路側に競り出す樹も多く、台風や局地的な豪雨などによる災害が多くなっている。昨今、倒木などによる道路封鎖や人的被害を未然に防ぐ手立てを求める

答弁

①被害は拡大。現在、申請は0だが申請予定が4件。地権者や自治会等団体から相談がある。

ホームページや広報で対策について周知、ハイカーには注意勧告ポスターを掲示している。

②道路管理者は月2回パトロールや地元からの情報などから危険木の把握をし、緊急措置が必要な場合は伐採等を実施している。自治会等団体は自主的に処理する場合などは交通規制や機材等の一部費用負担も行っている。被害を未然に防止するために努めていく。

文化・図書館センターに子どもと観光を入れ



高幣 幸生

質問

老朽化のひどい中央公民館は耐震対応も無く老朽化が進み、今、町が進める仮称「文化・図書館センター」は賛成で

老朽化のひどい中央

答弁

す。完成には正式名称になる。名称は公募されるが、出来れば仮称の段階で「文化・子どもと観光・図書館センター」とすべきであります。

（仮称）文化センター・図書館については、先進地の行政視察を行ない基本設計に取り組んでいる。正式名称は開館時期を踏まえ、文化交流の核になる事、又、町民の活動を通してふれあい、賑わいの名称公募を考えて

いる。名称に「子どもと観光」の提案ですが、公共施設の最適配置実現では、平成19年度以降、毎年住民説明会を開催する中、町施設の統廃合の検討は平成26年度から具体的に説明をした。国県にも同様の名称で協議を進めている。一方で「子どもと観光」の切り口については「にぎわい創出」を実現するキーワードと理解している。尚、わが町のPRに11月開催の国文・障文祭を通して、町を広く全国で知ってもらえる様に進めたい。「若者が住める住みたくなる町を作る」文化センターとして説明をしたい。

町 の 話 題



みんなで作ろう!防災かまどベンチ

今、防災かまどベンチは町内の災害時指定避難所を中心に13基設置されました。その取り組みに共感した各自治会にも設置が広がっています。

「防災かまどベンチ」は、普段は通常のベンチとして利用し、災害発生時などには座板を外し、炊き出し用のかまどとして利用するものです。この取り組みが大きな反響を呼び、世界銀行をはじめ、全国各地から視察に来られています。

その中心的役割をして下さっているのが、防災かまどベンチ実行委員会（委員長：森脇順二氏）30名の皆様です。

東日本大震災の被災地の方々の体験談を聞き、これは役立つと確信し、平成25年2月に「防災かまどベンチ実行委員会」が発足されました。

製作は行政・自治会(防災会)・同実行委員会の3者が協働し、年3基を目標に5年の実施計画を立て、財源は企業や赤い羽根共同募金などの助成金を活用。1基は4日間（土曜日の午前中）の工程で製作されており、ベテランのメンバーも初めての方も一緒に作ることで、防災意識が高まり、さらに知らない人同志が共に製作することで、人の絆が深まります。完成時には炊き出し訓練を行い、焼きそばや豚汁などを共に食し、心も体も温かくなります。

当初の計画は一応完了しました。次の目標は災害時の即戦力となる中学生たちとのコラボによる製作。さらに既設の防災かまどベンチのメンテナンスにも取り組む計画です。

皆さん、一度、防災かまどベンチにお座り下さい。（窪 記）



井戸 記

私もダイエットで夜ウォーキングをしなければならぬが、初心に帰って、平和な日本を噛み締めながら歩きたい。

私モダイエットで夜ウォーキングをしなければならぬが、初心に帰って、平和な日本を噛み締めながら歩きたい。

夏が終わり涼しくなってきた。運動するにはちょうどいい感じ。
この平群町でも夜にウォーキングをしている方をよく目にする。日本では当たり前の光景であるが、諸外国からみたら、ありえない光景である。世界の常識で考えると、夜の暗闇で歩くことは襲われるに等しい。人口の一定割合の人々は、生きていくために窃盗や強盗をせざるを得ない。
実際、欧米を含む先進国、発展途上国関係なく、夜に外に出るのは危険で被害にあつて当たり前と教育を受ける。そういう意味では、日本は本当に平和な国だとつくづく思う。

編集後記

お知らせ

議会報告会を開催します

*11月25日（土）午後2時～4時
*平群町中央公民館大ホール

ご参加お待ちしております

住民のみなさんに議会の活動状況をよりわかりやすくお知らせするために、議会報告会を開催しています。
今年も上記の日程で、8回目の報告会を行います。

報告の内容は、昨年度決算など9月定例会の審議内容です。
また、参加者のみなさんからの質問に応えるとともに、ご意見を聞きします。
みなさんのご参加をお待ちしています。